

平成30年度版 改善計画

学校名：山梨県立ふじざくら支援学校

No.	項目	現状と課題	H31年度に目指すべき状態	① H30年度に実施する内容 ②H31年度に向けて検討する内容	達成状況
1	会議等の効率化	資料の提示方法が統一されておらず効率的な提示ができていない。	資料の提示方法の統一による効果的な会議の実施。	① 全体朝礼回数削減。会議の時間内実施。 ② 各種会議の時間短縮。指導計画と教材教具準備の充実。	
2	学校行事の負担軽減	分掌連携による統合を行ったが、実際の運用面での検証が必要。	分掌連携による効率的効果的な学校行事の実施。	① 前年度の改善を受けての運用面での検証。 ② 分掌間の連携の定着と効率的な運営。	
3	校内組織の見直し	支援学校未経験者及び期間採用者増による仕事の不均等。	校務分掌の業務量と効率的な分担による実施。	① 分掌業務の分担の見直しと連携。 ② チームとして効果的な分掌業務の実施。	
4	業務の効率化	校務分掌毎のサーバの整理とその活用による業務の連携ができていない。	校内サーバの効果的活用による業務連携。	① 職員の連絡事項のメール・グループウェア活用と習慣化。 校内サーバの整理。 ② 校内サーバの効果的な活用方法。	
5	部活動の負担軽減	部活動は行っていない。日常的に生徒とふれあっている。	なし	なし	
6	地域人材の活用	いきいき人材活用事業・地域交流・ボランティアでの活用を行っている。	授業及び行事等における効果的な人材活用。	① 特別支援学校教諭を目指す学生のPTA行事への安定的活用。 ② より広い分野での地域の人材開拓（人材リスト作成）。	
7	（学校独自の項目） 個人研修日の設定	時間外勤務が多く、ワークライフバランスの確保が課題。	個人研修日を効果的活用し、定時退庁につなげる。	① 個人研修日を効果的に活用し、定時退庁につなげる。 ② 他の改善点と合わせて効率的に業務を行い定時退庁につなげる。	
8	（学校独自の項目） 積極的な専門家活用	児童生徒指導において困難事例が多い。PT、OT、ST、学校心理士など専門家の活用が必要。	積極的な専門家活用による指導の充実と教師の専門性の向上。	① 困難事例における教師の疲弊感の軽減のため、専門家を活用する。指導の方向性の確認と指導の充実を図る。 ② 専門家活用を活かした効果的な指導実践の充実を図る。	

※達成状況：次のA～Dで評価し、各年度末に県立学校は県教育委員会へ、公立小中学校は市町村（組合）教育委員会へ提出する。

A 達成できた B ある程度は達成できた C あまり達成できなかった D 達成できなかった

※様式は、必要な項目が含まれていれば、適宜、変更して使用して差し支えないこと。